

## 実践記録

学校/学年	小学校 / 6 年、5 年、4 年	
教科等：単元名	「インターネットのホームページを見るときルール」 ～ 悪質なホームページに気をつけよう～	
キーワード	「おかしい・あやしい」ページがでてきたら、その時自分なら、どうするか？	
情報モラル指導 モデルカリキュラム表における 目標	分類	情報社会の倫理      法の理解と遵守 ■安全への知恵      情報セキュリティ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	d 3    情報社会の危険から身を守るとともに、不適切な情報に対応できる
	中目標項目番号 中目標項目内容	d3-1    予測される危険の内容がわかり、避ける d3-2    不適切な情報であるものを認識し、対応できる
授業会場	■パソコン教室    普通教室    特別教室〔    〕    その他〔    〕	
学習の目標	インターネットのホームページには、必ずしも正しいものばかりでないことや意図的に作られた危険な情報があること、悪意のあるホームページにのせられた行動をとった場合に起こるトラブルを知り、情報の善悪に対して適切な対応がとれる判断力を養い、ホームページ閲覧のルールを理解する。	
使用教材	教材名	「事例で学ぶNetモラル」 「ベネッセ教育情報サイト」
	製作者	「広島県教科書用図書販売株式会社」 「ベネッセ」
	入手先(URL 等)	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶNetモラル」 <a href="http://benesse.jp/education/students/onlineroom/homepage/">http://benesse.jp/education/students/onlineroom/homepage/</a>

### 授業の成果

- 資料・内容・授業の進め方などを高学年で互いに共有しながら、学年・学級の子どもの実態に合わせて、情報モラルの授業を行った。授業用のソフトも互いに共有できるため、二つ用意し、内容を指導案の展開も学年会等で打ち合わせしつつ、高学年全体で「インターネットのホームページを見るときルール」を学習することができた。
- 身近な存在になっている情報機器の使用において、時として思わぬトラブルに巻き込まれることを想定し、そのような状況に出会ったとき、自分ならどう対処するか考えることを通して、近くの人に相談したり、自分の判断で回避できたりすること（クリックしないでもどること）に気づくことをねらい授業を進めた。学年があがるごとに、インターネットを家庭で使用している子どもも多く、家庭でのインターネットの使用方法を見直すよい機会にもなった。
- 疑似体験を通して、インターネットのホームページを見るときにルールの大切さに気づくことができた。
- 学年通信を通して、家庭でのインターネットの使い方を今回の授業をふまえて、見直すように呼びかけることもできた。

### 指導のポイント・留意点

- インターネットに仕掛けられた危険な情報のうち、家庭でのインターネットの閲覧、または学習等などで使用する場面を想定し、内容を取り上げる。
- ホームページが悪意のあるものばかりではなく、多くの正しい情報を発信しているページがあることを知らせる。